第3回下川町総合計画審議会(福祉・教育部会)会議録

- 日時 平成29年9月21日(木)
- 場所 総合福祉センター「ハピネス」
- 出席者 審議委員：筒淵委員、丸井委員、瀬川委員、濁沼委員、西方委員、遠藤委員

〈保健福祉課所管事務事業〉

出席者(町)：栗原課長、杉之下主幹、小松主幹、齋藤主幹、古屋主幹、八林主査、
塚辺主査、古内主査

▽施策項目「地域保健福祉」

・事業名「福祉・医療環境コーディネート事業」

町：事務事業内容説明

委員：今回8名採用したが、辞めていった人の理由は。

目標19名にするのであれば、住宅の確保とかは。

町：理由は様々。住宅については、建設水道課やタウンプロモーションと密に連携取りつつ対応している。

委員：保健福祉だけでなく、他の施設関係の募集もするのか。

町：どの施設にどういう人を何人と・・・計画的に思っている。

現場も忙しいしので、町全体としてPRした方が良いのではと考え保健福祉課が担当したが今後は施設に戻していきたい。

町：人をリクルートするノウハウを今回施設でも学べたと思う。将来的には各々の部局で思っている。

委員：人集めだけでなく、研修も各施設で予算組みするよう体制とってもらえれば。その施設でないとわからない事もたくさんあると思うので。

町：徐々にやっていきたい。

・事業名「福祉・医療人材育成事業」

町：事務事業内容説明

委員：10万円助成の条件とか縛りはあるのか。

町：町内の施設に2年以上勤めていただく条件は持っているが、辞める事情は

様々なので。

委員 : 返さないとならないのか。

町 : 要綱上は返還規程入っている。

委員 : 2年以内で出ていった時は? やむを得ない事情でも、そのうち何分の何を返金するとかはないのか。

町 : こういう場合、こういう場合と厳密にはしていない。

委員 : 返金されたことあるのか。2年以内でいなくなる可能性はあるのか。

町 : 今のところない。今後、可能性はある。

委員 : 長く質を向上させて支援していく目的だから、やむを得ない事情でも人員確保するならちょっと勿体ないかな、緩いのかなと思う。

委員 : 助成するのはいいこと。辞めた人はいるのか。縛りは必要。規程破ったときの返金も必要なことと思う。

町 : 始まったばかりで2年経ってないので。強制力をもたせるとなると要綱でなく条例とかになる。

・事業名「高齢者向け快適居住空間創出具現化事業」

町 : 事務事業内容説明
意見等特になし

・事業名「共生型住まいの場管理」

町 : 事務事業内容説明

委員 : むく森の指定管理を社協でしていて、今まで事故はないが夜の管理人がいない。これからもそういう形でいくのか。

町 : 元々、元気で一人暮らししていて、家が古くて寒いけど持ち家があるので公住に入れたい等の人が町外に出ないですむようにというもの。

福祉施設でもないし、住宅という考えでいる。日中、調理員とか相談員いる。夜は一世帯という考え。住宅という位置づけ。

・事業名「福祉灯油等購入助成事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : (他の部会から出ていた質問。)

電気の対象者はいるのか。電気の暖房に対する助成予定はあるか。

対象者がいるのであれば、不公平感がでないように助成してほしい。

町 : 灯油に限定していたが、今回、100Lに見合う分の薪を助成した。

電気についても検討したが、どういうやり方があるのか。

仕組み的に難しいところがある。

オール電化の対象者を把握しきれなかった。オール電化の公住も

できているので非課税の人も入る可能性ある。今後、検討していかなくては
と思っている。

委員 : 暖をとるために支給していると思う。オール電化の場合、暖以外での電気も
あると思う。

町 : 電気での補助的な暖もあるが、主になる暖で考えている。

100Lに見合う分になると思う。

委員 : 薪は町内の薪か。

町 : そうです。

委員 : 灯油の価格は、90円で考えるのか。

町 : 基準を設けたいと思っているが、そこはこだわっていない。

100円を超えていないからやらないという市町村もある。

委員 : 調べて検討してほしい。

▽施策項目「健康づくり・医療」

・事業名「子どもすこやか予防接種事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : H29年度の予算が増えているが。

町 : インフルエンザ予防接種事業で持っていた予算を、子どもの任意予防接種と
65歳以上の定期予防接種に分けたため額が大きくなっている。

・事業名「20歳からの健康地域づくり事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 検診の受診率が増えた減ったで医療費に影響あるか。

町 : 単年度の健診の受診率で変わる事はない。健診は継続的に受けて病気の早期発見・重症化を予防するためのもの。常に高めの受診率を維持しないと意味を持たない。将来的には効いてくる。

委員 : 実は、病院に行って病気が見つかったから医療費がかかったとか。

町 : 早期予防・発見が医療費抑制に繋がる。

・事業名「がん検診事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : がん検診について、がん検診の受診数減少していると書いてあるが、がん検診について実態を把握するようなアンケートをしていなかったのか。

町 : がん検診も併せて行っている。受けない理由は様々。

委員 : 受けてない方に対する策を、いろいろ考えてこられたということで。

町 : 企業でも職場健診にがん検診を取り入れているところもあるので、把握していきたいと思っている。

・事業名「国民健康保険」

町 : 事務事業内容説明

意見等特になし

・事業名「後期高齢者医療制度」

町 : 事務事業内容説明

意見等特になし

・事業名「特定健康診査・特定保健指導事業」

町 : 事務事業内容説明

意見等特になし

・事業名「医療給付事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 子どもの医療費の現物給付ありがたい。子どもの医療費が少なかったら、何か

インセンティブがあるのか。

町 : ない。特定健診についてはある。ただし、国の予算による。

委員 : 町で受診しなかったら、がんばったね的なのがあると子どもにかかる医療費の削減に繋がっていいかなと思う。

町 : 我慢することによって重症化してしまわないようにするのが目的。軽いうちに病院にかかってもらう事を目的にしている。

委員 : 我慢でなく、お互いの負担が少なくなる仕組みがあればいいなと思った。

町 : 医療費抑制されたからという事でのポイントはない。

委員 : 元気でいたからというポイントはあるといい。病院に行かなかったからといことでなく。

町 : 小さいうちは、心配ないようにきちんと病院にかかってもらった方がいい。

▽施策項目「高齢者支援」

・事業名「高齢者見守り事業」

町 : 事務事業内容説明
意見等特になし

・事業名「介護予防・日常生活支援総合事業」

町 : 事務事業内容説明
意見等特になし

・事業名「包括的支援事業」

町 : 事務事業内容説明
意見等特になし

・事業名「在宅医療介護連携・認知症対策事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 在宅医療を推奨していくのか。

町 : 国が進めている。

委員 : 作業療法士が入っているが、在宅関係で理学療法士が入るともう少し広がるの

かなと。

町 : 理学療法士について必要性はあると考えているが、人を増やすことについては、一概にうちで判断できない。

今、一人で50~60人持っている。町立病院も欲しいと思う。小さい町だが充実した施設を持っていると思う。フルに活用しながら体制を整えたり、職員の意識改革も含めて考えていかないとならないと思う。

いろんな連携をしながら考えていかないとならない。

▽施策項目「子育て支援」

・事業名「保育事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : こども発達支援センターは町内にあるのか。

町 : 名寄にある。

委員 : 障がいのお子さんが入ったときに、先生はひとりに一人付くのか。

町 : 障がいの内容による。

委員 : いっぺんに何人かいたら他の子をみる先生が減ることになるのか。

町 : 障がいの内容によって、マンツーマンだったりすることもある。

委員 : これくらいの子は大丈夫だけど、これくらいだと入るのが難しいとか。

町 : 今まで入れなかったという子はいない。

委員 : 森の遊びで目指しているものを教えてほしい。

森林環境教育の一環としてとも、五感を通して感じとるとも書いてあるが。

町 : 園の保育目標に繋がっている。「たくましい未来に生きる心と体を育てる」という保育目標。3本柱の、森の遊び、食育、地域世代間の取り組みの一つ。四季の中でのいろんな体験の積み重ねが育っていくと考えている。

委員 : 町の森林環境教育の目的とは違うが、子どもの心と体を育てるという目標で。

町 : 幼児期は、森の中で遊ぶ、楽しむというところに繋がっている。

委員 : 月1回ですか。

町 : おおよそ月1回。天気がいいときには増やしたりしている。去年は、14回。年間計画を立てている。

委員 : 課長から視察研修の旅費をつけていると先ほど聞いたが、これまでどんな所

に行ってきたのか。

町 : H28年度は、札幌の山の麓にある「宮の丘幼稚園」に2回で4名行っている。冬に行ったので、スキーなどしていた。今度は、小樽の「かもめ保育園」の保育内容と実践をみってくる予定。

委員 : 保育士さん足りない中で、忙しいなと思って聞いてみた。

委員 : 3歳児未満が増えているという事だが、都会の待機児童のような体制が出来てしまうことになる。

町 : 90名定員で以上児70人、未満児20人の体制でいけるのか検討しないと
ならない。一時だけなのか数年後を見据えた計画が必要と思っている。

委員 : 名寄が空いていて、じゃあ名寄に住むわと言う人でたらもったいないので、
うまく対応してほしい。

・事業名「乳児すこやかに育て応援事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 子育て世代の負担軽減という理由だが、負担が大きいのは乳児期ではないと
よく聞くが、この時期にしたのは。どの世代が支援を必要としているかを調
査する方法もあると思う。

町 : 乳児期のさまざまな諸費用に対してという事で始めている。バイオマス事業
の削減効果をどこに使うか検討した結果、財源の問題もあって、オムツが取
れるか取れないかの2歳にして、月3,000円の商品券を出すことになった。
まだまだお金がかかる時期もあると思うが、削減効果を当てるターゲットに
した。

委員 : 例えば、ランドセル支給金とかあるといいのかなとか。

委員 : 商品券にしたのは、子どもの為に何でも使ってくださいという事を出してい
るものと思う。

町 : 町内の消費喚起の意味も含めている。オムツだけでなく、いろんな子育ての
ために使ってということ。本来は、おむつ代支給券になるのかもしれない。

委員 : 最初、現物給付の話も出ていた気がする。

委員 : いろんなことに使えるのはいいこと。

委員 : バイオマスでいろんな削減が出て、もっと使えるお金が出れば、また違う事

できるのかも。

委員 : 子育て世代の情報を聞いて検討してもらえれば。

▽施策項目「障がい者支援」

・事業名「自立支援給付事業」

町 : 事務事業内容説明

意見等特になし

▽その他

委員 : 高齢者施設での事故が最近報道されている。

民間の所のチェックは出来ないものなのか。

町 : 民間のグループホームとかは、町で指導することになっている。

今のところ、事故報告はない。

委員 : 小さい町でそういうことあると町全体のイメージダウンになるのでは

ないかと思うので、チェック体制をとってほしい。